

【提案・要望の具体的内容】

電気自動車（EV）は、環境にやさしく、老若男女が負担なく移動できる社会モデルを創造するとともに、日本の自動車産業（技術）が世界トップを走り続けるために不可欠なツールである。その社会モデルの普及のためには、EVとともに、充電環境やEVとの通信環境のインフラ整備を一体的に推進する必要があることから、以下により、特に地方部においてその重点的整備、普及を行うこと。

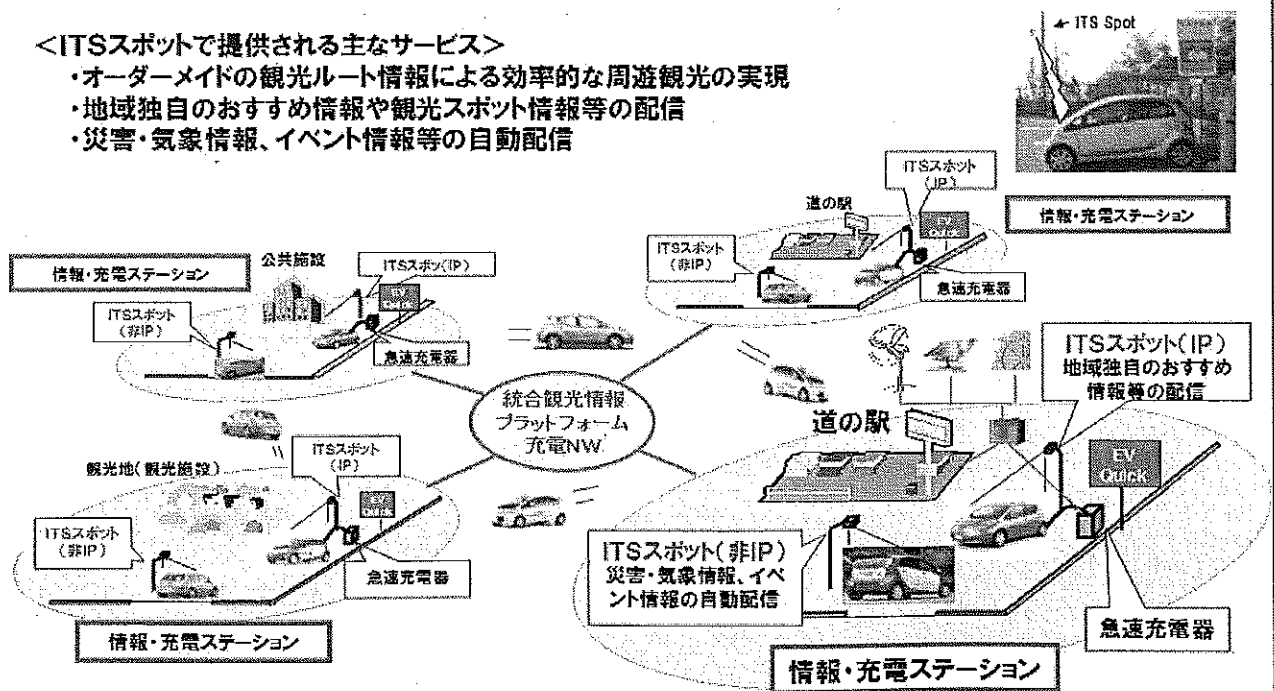
1. 高速道路のサービスエリア（SA）・パーキングエリア（PA）、道の駅への急速充電器の整備を推進すること
2. SA、PA、道の駅へのITSスポットの整備を推進すること。  
※ITS：高度道路交通システム
3. 道の駅などに急速充電器とITSスポットを設置し、情報・充電ステーションとして面的に整備、ネットワーク化することで、EVで安心して効率的に周遊できる「次世代EV社会モデル（長崎EV&ITS（エビッツ）モデル）」の全国への普及、展開を支援すること

長崎EV&ITS(エビッツ)プロジェクト

EV(電気自動車)とITS(高度道路交通システム)を活用した未来型ドライブ観光システムを構築し、道路交通の活性化、観光振興、地域産業の振興による地域活性化を推進

<ITSスポットで提供される主なサービス>

- ・オーダーメイドの観光ルート情報による効率的な周遊観光の実現
- ・地域独自のおすすめ情報や観光スポット情報等の配信
- ・災害・気象情報、イベント情報等の自動配信



### 【1 急速充電器の整備について】

○高速道路のサービスエリア（SA）・パーキングエリア（PA）、道の駅への急速充電器の整備を推進することとは

- ・電気自動車（EV）は、走行中の大気汚染物質の排出がなく、走行時の騒音もほとんどないなど環境への負荷が少ない次世代自動車であるが、ガソリン車と比べて走行可能距離が短く、長距離を走行する場合は経路上での充電が不可欠です。
- ・現在、EV販売メーカーや自治体等が急速充電器の整備を進めていますが、現在、全国の急速充電器設置箇所は、都市部を中心に約800箇所の整備に止まっています。
- ・高速道路のSA、PA、道の駅は、長距離を運転する際の休憩箇所として全国に整備されており、ここに急速充電器を設置することは、EVの走行環境を全国的に整備することにつながります。
- ・ガソリン車は、ガソリンスタンドでしか給油することはできませんが、EVは、通常は自宅等の自動車保管場所で充電するので、充電スタンドが民間ビジネスとして設置拡大していくことは、EVの普及台数が少ない現在では期待できません。
- ・そこで、EVの走行環境を整備し、EVの普及を促進するため、特に民間における整備が進みにくい地方部のSA、PA、道の駅に急速充電器の整備を推進する国の新たな施策（国による整備、SA等の管理者への設置の義務付け、設置費の全額補助等）の創設を提案するものです。

### 【2 ITSスポットの整備について】

○SA、PA、道の駅へのITSスポットの整備を推進することとは

- ・ITSスポットは、交通情報の配信や、ドライブ中の安全運転支援等を実現するため、国において高速道路などに設置を進めていますが、SA、PA、特に道の駅にはほとんど設置されていません。
- ・ITSスポットは、ITSスポット対応カーナビとの間で高速・大容量通信が可能であり、一部のSAや道の駅では、交通情報だけでなく、地域の観光情報等の配信を行っております。
- ・IP系ITSスポットは、充電設備の情報配信に活用できることから、EVへの情報配信のため、急速充電器と一体的な設置が有効です。
- ・ITSを交通情報の配信だけでなく、運転者に対して、EVの充電設備情報や地域の観光情報等を含めて総合的に情報発信する道路インフラとして全国に普及させていくため、国において、道路における情報発信拠点であるSA、PA、道の駅へのITSスポットの重点的整備を推進することを提案するものです。

### 【3 長崎EV&ITS（エビッツ）モデルの普及、展開支援について】

- ・長崎県五島列島で推進している長崎EV&ITSプロジェクトは、EVをレンタカー等として先行導入するとともに、道の駅や観光施設（公園、温泉等）、公共施設（港ターミナル、役場等）に急速充電器とITSスポットを「情報・充電ステーション」として整備しています。
- ・情報・充電ステーションにおいて、充電設備や地域の観光情報等をその位置情報とともに配信することでEVで安心して効率的に周遊できる次世代EV社会モデル（長崎EV&ITS（エビッツ）モデル）を構築しています。さらに、情報・充電ステーションを再生可能エネルギーを活用した防災拠点とするほか、情報通信基盤を活用した地域コミュニティの活性化などにも取り組む予定であります。
- ・EVの普及だけでなく、次世代EV社会基盤の整備、公共サービスの向上にも寄与する「長崎EV&ITS（エビッツ）モデル」を全国に普及、展開させるための国の支援をお願いするものです。

# 48 ぼた山防災対策について

【経済産業省】

## 【提案・要望の具体的内容】

ぼた山における大規模な災害発生に対応するための新しい災害復旧制度の創設又は現行の災害復旧制度の活用を可能とすること

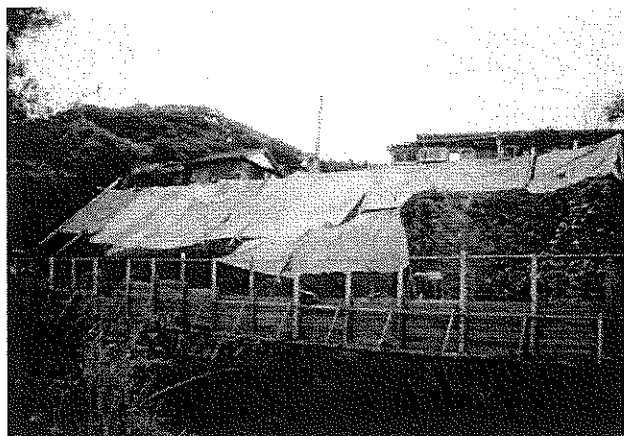
平成15年度被災状況  
(新高野炭鉱肥前ぼた山(佐世保市世知原町))



平成18年度被災状況  
(丸尾炭鉱本坑ぼた山(佐世保市江迎町))



平成21年度防災工事状況  
(吉福炭鉱2号ぼた山(佐世保市吉井町))



### 【参考】

- ・平成23年度末基金残高: 387百万円
- ・基金を取り崩して実施した主な防災工事等
  - H15年度: 15,097千円
  - H18年度: 7,022千円
  - H19年度: 22,749千円
  - H20年度: 4,243千円
  - H21年度: 15,060千円

(参考)  
本県のぼた山の状況

ぼた山数	無資力 ぼた山	危険箇所	工事完了 箇所	有資力 ぼた山	不明
157	85	68	68	54	18

【1】 この要望の背景・必要性は以下のとおりです。

無資力ぼた山の危険箇所については、国の「ぼた山災害防止工事費補助金」（平成13年度終了）により防災工事を実施済みですが、工事後数十年を経過している箇所もあり、今後災害の増加が懸念されます。

【2】 この要望における課題・問題点は以下のとおりです。

- ・本県では、平成11年度から「産炭地域活性化事業費補助金（産炭地域環境整備事業費）」に基づき、ぼた山防災施設の管理及び補修を主目的として「長崎県ぼた山等環境整備基金」を造成いたしました。
- ・ぼた山災害が発生した場合は当該基金を取り崩して防災工事を実施しておりますが、基金残額には限りがあります。
- ・また、ぼた山災害には一般の災害復旧制度が適用できないため、基金で対応できないような大規模なぼた山災害には復旧の手立てがありません。

【3】 本県が望むことは以下のとおりです。

- ・現行の基金では対応困難な大規模なぼた山災害にも対応できる新たな災害復旧制度を創設していただくこと、又は、公共土木施設災害復旧事業等の現行の災害復旧制度をぼた山災害復旧事業にも適用できるようにしていただくことを望みます。

【4】 要望が採択されることによって、以下が可能となります。

- ・基金以外の国の制度を整備し、大規模なぼた山災害発生への適切な対応を可能とすることで、住民の生命・身体・財産の安全を確保し、災害に強い安全・安心で快適な地域づくりを推進することが可能となります。